

日本ユニコム

携帯で仮想取引

機能拡充で顧客支援

日本ユニコム(東京都中央区、高松公社長、03・5623・5111)は、8月をめぐりに携帯電話を使った商品先物情報即時配信システムに仮想取引の機能を搭載するなど商品先物の対面、コールセンター取引事業を強化する。東京工業品取引所が今年秋をめぐりに取引時間を延長することなどに伴い、時間、場所の制約を受けにくい携帯電話端末を利用した取引の利便性を投資家に訴求する。

日本ユニコムは対面、コールセンター取引の顧客を対象に、携帯電話専用の商品先物情報即時配信システム「P-フラスコ」を提供。価格、ニュース配信、チャート表示、口座照会などに加え、売買発注機能を追加するなど機能拡充を進めてき

ている。8月をめぐりに取引を本番さながらに体験できる仮想取引の機能を搭載する。仮想取引の利用は無料。携帯電話アプリケーションサービスでの仮想取引の機能搭載は商品先物取引業界では初めて。仮想取引の扱い銘柄は、

東京工業品取引所の金、銀、白金、原油、ガソリン、ゴムなどの9銘柄のほか、東京工業品取引所が今年23日に上場を予定している「日経・東工商品指数先物取引」も扱う。夜間取引にも対応する。

また、東京穀物商品取引所の大豆やトウモロコシ、アラビカコーヒー、粗糖などの5銘柄と中部大阪商品取引所の金、ガソリン、灯油の3銘柄を扱い、実際とほぼ同じ環境で仮想取引ができる。初心者も体験を通じ商品先物取引を学べるだけ

でなく、経験者も投資シミュレーションなどに使える。同社では「身近なツールである携帯電話を活用、外出先などでも手軽に情報を得られ売買チャンスを見逃さない取引ができる」とし、機能拡充により活用を促す。投資家のすそ野拡大を目的に、商品先物取引会社や商品取引所が仮想取引の提供に力を入れる動きが目立っている。